

SOA NEWS

Vol-7 No. 8

1987. 9. 1

(通巻一第64号)

埼玉県サイクリング協会 〒336 浦和市岸町3-17-42 埼玉県青少年会館内 Ⅱ 0488-24-2711

SCAラリー案内

恒例となっています、SCAラリーが下記の要領で開催されます。

申込期日がせまっていますので、まだ申込が済んでいない方は至急手続きを取るようお勧め致します。

期日 昭和62年 9月27日(日)

(雨天決行)

集合場所 寄居町総合運動公園

(駐車場有)

寄居町大字折原字秋山

集合時間 午前 9時30分

定員 200名

参加費 会員 1,000円(記念品・副食)

非会員 1,500円(同上+保険代)

申込 9月19日までに協会事務局へ参加費をそえて申し込む

日程 9:30 集合、9:40 開会式、

10:00 スタート、12:00 最終ゴール、

12:10、表彰式・昼食会、

13:40 解散

ラリーの方法 所要時間申告式タイムトライアル

コース 運動公園(スタート)→釜

伏峠→登谷山牧場→登谷山南広場

表彰 タイム賞、ステップ賞他

持ち物 会員証、保険証、地図、雨具、お箸、その他必需品

その他 問い合わせ協会事務局

SCAクラブラリー 真夏の星空のもとで開催される

今年で9回目を迎えたSCAクラブラリーが、8月22日(土)～23日(日)の両日にわたって寄居町で開催された。主管クラブは上福岡CCが担当し、集合場所やテントの設営箇所及びラリーのコース等事前の調査、そして当日の運営等についていろいろと御世話になった。

さて、22日は寄居町鐘撞堂山の山頂においてテントを設営し、みんなで食事をして星を見ながら語り明かす予定になっていた。自動車で食料や炊事道具、テント等を途中の馬場ノ内という所まで運び、さらにそこから頂上目指して人力で担ぎ上げること1キロ余り約15分の行程である。道はちょっと険しいがハイキングコースなのでしかたがない。みんな重い荷物を頑張って運び上げた。2往復した人もいたようである。だが額に汗を光らせ登り詰めた甲斐は充分にあった。山頂からの見晴らしは360度のパノラマである。そしてその晩の夜景はとても素晴らしい。

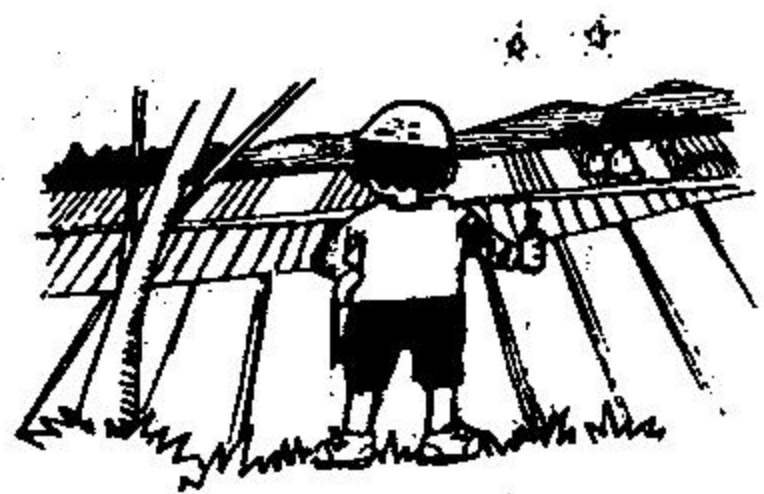
テントは速やかに設営することができた。頂上はあづまやがあるためちょっと狭いが、手分けして適当な場所にペグを打った。ブルーのフライシートを張り終え周りを見回すと

なかなか壮観である。

開会式は原田副理事長の司会により、星野副会長の挨拶に始まりビールで乾杯した。次はいよいよ楽しみの野外料理だ。

メニューは焼肉料理である。炭火を起こすのに苦労したが、アミの上で豪快に焼いた肉や野菜はとてもうまかった。料理を担当したのはプロのコックさんで見事な腕前であった。こういう人がクラブにいと十人力である。御飯も炊き上がりみんな充分満足したようだった。この御飯は翌日おじやにして食べた。夜が更けるにつれて一人二人とテントの中に消えていった。何人かは夜景を楽しみながら話しは尽きないようだった。あの明かりの一つ一つの下にいろいろなドラマがあるんだなァと思うと、まるで雲の上から下界を見ているようなそんな気がした。

23日は明け方からの雨ですべて中止となった。陣見山でヒルクライムを予定していたのでとても残念である。でもこれも仕方の無いこと、来年はガンバって走りましょう！。記念のバッヂを貰って各自帰途についた。皆さんご苦労様でした。風邪など引かなかったでしょうか・・・。



< 友好団体 >

SAITAMA

ヤング・ジェネレーション'87



主役になれる方々を募集します。

「今、青春ネットワーク」をテーマに、SAITAMAヤング・ジェネレーション'87が開催されることになりました。

これは、「埼玉県下の青年たちが自らの手で青年の集いを開催し、自らの手で成し遂げていくことにより青年層の無限の可能性を見出し、同じに、埼玉の青年としての認識を新たにす出発点として開催される青年のためのお祭りです。従ってどなたでも個人またはサークル等のグループでも自由に参加できます。

SAITAMAヤング・ジェネレーション'87実行委員会では、みなさまの活発な活動の発表の場として参加者・参加団体を募集しています。詳しくは下記へご連絡下さい。

日時 昭和62年11月23日(祝)
会場 浦和市・別所沼公園

問い合わせ・申し込み先

SAITAMAヤング・ジェネレーション'87実行委員会

事務局 埼玉県民部青少年課内

TEL. 0488-24-2111

(内線 2587)

SCLC ラン 開催のお知らせ

今年もSCLCランを下記のとおり開催いたします。リーダーはもとより一般の方も大歓迎ですのでぜひお誘い合わせて参加してください。

日時 昭和62年9月26日(土)

集合場所 寄居町末野449番地

民宿 円良田荘

TEL. 0485-81-2386

集合時間 午後6時、現地集合ですので夕食に間に合うように到着してください。

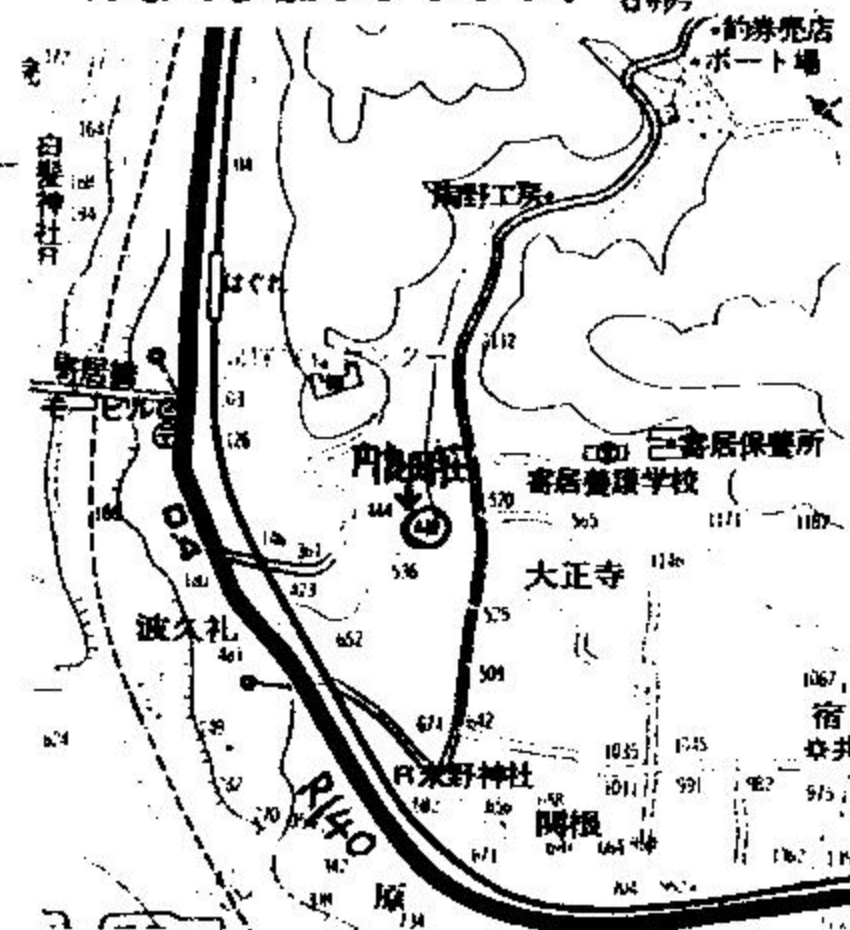
参加費 5500円

申込先 矢作知久(芝川CC)

TEL. 0482-51-5365まで連絡してください

申込締切日 9月20日(日)

* なお、翌日の9月27日(日)は、SCAラリーが同じ寄居町で開催されるので、こちらの方にもみんなでご参加しましょう。



第3 八ヶ岳サイクル マラソン

今年も八ヶ岳サイクルマラソンが開催されます。長野県原村をスタートし、はちまき道路、八ヶ岳横断道路、清里、野辺山を経て南牧村市場で折り返し、再び原村へもどる往復約90kmのコースです。競技ではないので途中で休憩を30分以上とるよう義務づけられています。

日時 昭和62年10月24-25日

24日(土) 15時~17時

受け付け、車検

25日(日) 7時~9時30分

集合、スタート

16時最終ゴール

場所 長野県原村

主催 原村観光協会 八ヶ岳サイクルマラソン実行委員会

参加資格 15才以上の男女で、交通ルールを守り、自然を愛しマイペースで完走できる人。

定員 400名 応募者多数の場合は、審査・抽選で決定

参加費 11000円(1泊2食、保険・記念品などを含む)

要項請求 封筒に60円切手を貼り本人の住所氏名を明記したうえで、その封筒を同封して下記へ要項を請求する。

〒392 長野県諏訪市高島1-25-14フジビル3F
八ヶ岳サイクルマラソン実行委員会

申込 所定の申込用紙に必要事項を記入し、本人の住所氏名を明記して60円切手を貼った封筒を同封して実行委員会へ送付する。

締切 9月12日(土)

問い合わせ先 八ヶ岳サイクルマラソン実行委員会

TEL. 0266-58-2244

< 投稿 >

宇宙人はいるのか・・・？
真夏の夜空を眺めていたらふっと遠くの星に無性に行ってみたくなった。もし地球以外の星に住んでいる生物が同じように星空を眺めていたら、やはり行ってみたいと思うだろうか。そんなことを空想していたら宇宙人の話を思い出した。

僕たちの地球は太陽系に属しているが、真ん中の太陽を中心に3番目の位置で回っている。この太陽系は更に広大な銀河系の中に含まれている。そしてこの銀河系には星が2000億以上あるといわれている。このたくさんの星のなかに果たして宇宙人はいるのだろうか？

まずこの銀河系のなかに太陽と同じような星(恒星)がいくつあるか数えると、だいたい1割程度あるという。またこの太陽に似た星の周りを回っている星(惑星)がどの位あるか数えると、そうすると更に1割程度あるという。数にして20億にもなる。この数字をもとに宇宙人の存在を考えてみると、最初になぜ太陽に似た星でなければいけないかという、太陽より大きい(重い)星は1000~2000万年ぐらいで燃え尽きてしまうそう。もしこの太陽の周りを回っている惑星に生命が芽生えたとしても、2000万年ぐらしか太陽が熱を出してくれないから進化する時間的な余裕がないことになる。なぜなら地球において生命が誕生して高等な哺乳類に進化するのに30億年もかかったからである。今度は反対に太陽より小さい(軽い)星だとどうか。この小さい太陽の周りを回っている惑星に生命が誕生したとしても、太陽が小さいのであまり熱を出してくれないから生命は寒くて進化できないという。このことから言えることは、太陽系の太陽と同じ大きさ(重さ)で、ちょうど地球のように真ん中の太陽に近すぎず、また遠すぎないちょうど良い距離にある惑星には、もしかしたら宇宙人がいるのではないかと、ということである。その数ざっと

20億、確率としてはかなり高いと思う。以下続く

UCC 山崎辰雄

[事務局 だより]

*事務局要員は次の方がたです

9/5 保泉 9/19 谷

10/3 近藤 10/17 渡辺

*原田 知治副理事長のTEL変更

0487-66-1881

* 編集後記 *

毎年実施されている世界最大の自転車レース、ツール・ド・フランスが今年もテレビで放映されたので見た人も多いと思う。昨年までレースで活躍していた地元フランスのベルナル・イノーが引退したため、今年はどうのようなレースが展開されるか楽しみであった。結果はアイルランド人のステファン・ローシュ(イタリア、カレラチーム)がアルプスの山場でスペインのペドロ・デルガドと死闘を演じ、マイヨー・ジョーヌを獲得した。ローシュはゴール後酸欠で意識を失うこと数度、病院へ運ばれていった。翌日病院へ押し掛けた記者の質問に対して、自分の体力の限界を越えてもデルガドと決着をつけてやると話していた。正にプロの勝負にかける執念のようなものを感じた。このガッツが同年に二つの大きなレース(ジロ・デ・イタリア)に勝利を取めた原動力となったのではないか。どんなに優れた才能でもこのガッツがあってこそ開花するものと思う。

史上五人目のダブル・ツール達成自転車競技の歴史に新たな1ページを記すことになった。来年も大いに期待したい。(文責 山崎)